

3. ローマ世界 c. ローマ帝国

前31年の[1 **アクティウム**]の海戦でアントニウスとクレオパトラの連合軍を破った[2 **オクタヴィアヌス**]は[3 **前27**]年元老院からアウグストゥスの称号を得、事実上[4 **皇帝**]となった。これが[5 **ローマ帝国**]成立とされるが、これ以降も[6 **元老院**]が大きな権威を持つなど、[7 **共和政**]の制度を多くのこしていた。

これ以降、2世紀後期までの約200年間に[8 **パクスロマーナ**] (ローマの平和)とよび、ローマ風の都市が水道や道路とともに各地に作られ、属州の上層市民も市民権を与えられ、ローマの秩序の中に組み込まれた。とくに1世紀末から2世紀の後期にかけての[9 **五賢帝**]時代(後 96 ~ 180)が全盛期で、[10 **トラヤヌス**]帝のとき領土は最大となった。

なお3世紀初頭のカラカラ帝のときには、帝国のすべての自由民に[11 **市民権**]が与えた。

①[12 **前27**]年、オクタヴィアヌス、元老院より[13 **アウグストゥス**] (「尊厳なる者」という意味)の称号を得、皇帝となる。([14 **ローマ帝国**] 成立)

自ら[15 **プリンケプス**] = 「[16 **第一の市民**」と称する。(前期帝政 = [17 **元首**] 政)

前期帝政の特徴 18 **共和政の機構をのこし、政治は皇帝と元老院の共治の性格が強い。**

②パクス=ロマーナ([19 **ローマの平和**] という意味)。
1~2世紀にかけての約[20 **200**]年間にわたる、ローマの[21 **軍事力**]を背景に空前の繁栄と平和をこのようにいう。(「ローマ人は[22 **廃墟**]を作り、それを平和と名付ける」)

③ **五賢帝時代**……[23 **1**]世紀末から[24 **2**]世紀後期にかけての、ローマ帝国の全盛期をいう。五人の優れた皇帝が続いた。二代目のトラヤヌス帝のとき 25 **帝国の領土は最大** となった。なお五代目の[26 **マルクス=アウレリウス**]帝はストア派の哲学者として有名であり、[27 **中国**] (後漢)に使者を派遣した人物と考えられている。

d. 西ローマ帝国の滅亡

五賢帝時代の末期から、西アジア(イラン高原)では[28 **パルティア**]にかわり、[29 **ササン**]朝ペルシャが成立ローマ領への侵入をくり返し、ヨーロッパ北部の[30 **ゲルマン**]民族の侵入もつづいた。こうしてローマの領土は縮小しはじめ、奴隷の入手がしだいに困難になり、さらに国内での、[31 **交易**]も不活発となった、さらに軍事費の増大はローマを疲弊させた。

こうした事態は、国内での交易や安価な[32 **奴隷**]の入手を前提とする[33 **ラティフンディア**]制の維持を困難にした。これにかわって、国内で普及してきたのがコロヌスとよばれる[34 **農奴的** **小作農**]を用いる[35 **コロナートゥス**]制である。

こうした帝国の衰退と社会の変動を背景に、3世紀中期になると[36 **軍人皇帝**]時代とよばれる混

乱時代を迎える。

こうした混乱をおさめたのが、3世紀末皇帝となった[37 **ディオクレティアヌス**]帝である。かれは皇帝権力の [38 **絶対**]化をはかり、皇帝のあり方を大きく変化させた。これ以降のローマ帝国の政体を[39 **専制君主**]制(後期帝政)とよぶ。かれは、自らの神格化をはかり、これをみとめない[40 **キリスト教徒**]に弾圧をくわえた。さらに帝国を四分割した。

- ①有力な対抗勢力の登場→侵略戦争のいきづまり、しだいに領土縮小
 - (1)西アジア(イラン高原)…[41 **パルティア**] (前3~後3世紀)→3世紀[42 **ササン**]朝ペルシャ(3~7世紀)の侵入
 - (2)ヨーロッパ北部…[43 **ゲルマン**]民族の侵入

↓
[44 **奴隷**]の入手困難と [45 **経済活動**]の停滞

②社会構造の変化 [46 **コロナートゥス**]制の普及→奴隷制度の解体

| | ラティフンディア制 | コロナートゥス制 |
|------|---------------------------|----------------------------|
| 時期 | ポエニ戦争後(前2~後2世紀) | 軍人皇帝時代以降(後3世紀~) |
| 経営方法 | 大土地所有による経営 | [47 コロヌス]による小規模経営 |
| 労働力 | [48 奴隷] | コロヌス = [49 農奴的小作農] |
| 主要作物 | 牧畜、オリーブ油、ぶどう酒 | [50 小麦など穀物] |
| と経済 | →[51 交易]によって食料を確保 | →[52 自給自足]が可能となる |

大農場制…土地の持ち主が、奴隷や労働者に命じて農業をさせ、収穫物をえる。労働者には賃金を払う
小作農民…地主から土地を借りて農業を行い、収穫物の中から借地料(小作料)を払う。

コロナートゥス制…大所領を所有する上層市民たちが、貧困化した[53 **下層市民**]、解放奴隷、移住してきたゲルマン人らを小作人([54 **コロヌス**])として働かせ、小作料をとるやりかた。3世紀頃より、これまでの[55 **奴隷**]を用いた大農場経営([56 **ラティフンディア**]制)にかわって広がるようになっていった。

③3世紀中期…[57 **軍人皇帝**]時代→地方軍団の司令官が皇帝を自称

軍人皇帝時代…前期帝政末([58 **3**]世紀中期)の[59 **混乱**]期、各地の軍隊が皇帝をたてあつて激しく抗争した時代。約50年間に26名の皇帝が建ち、24名が殺された。

- ④後3世紀末[60 **ディオクレティアヌス**]帝
 - ア)皇帝を絶対化をはかる→[61 **ドミナトゥス**]と自称(「[62 **奴隷の持ち主**」の意味)
 - イ)皇帝を[63 **神**]としての崇拝することを強制→[64 **キリスト**]教徒を大弾圧
 - ウ)4人の皇帝を置き、帝国の[65 **分割**]統治を行う→自らは東の正皇帝となる
 - 以後を後期帝政([66 **専制君主**] 政 = [67 **ドミナトゥス**] 政)とする